

**世界で最も普及しているスキル標準と iCD の比較調査を実施、iCD に海外の最新情報を搭載予定  
～9月4日（現地時間）に英国 SFIA Foundation と相互協力協定を締結～**

IPA（独立行政法人情報処理推進機構、理事長：富田達夫）は IT 人材育成のフレームワーク「i コンピテンシ ディクショナリ」（以下、iCD）の充実を図るため、英国の IT スキル標準の普及団体、SFIA Foundation と 2 年半に及ぶ、比較共同調査に着手します。これに先立ち、同団体と調印式にのぞみ、相互協力協定を締結しました。

SFIA（Skills Framework for the Information Age）<sup>(1)</sup>は、英国の政府・学会・大学・有力企業等により、2001 年に開発された IT スキル標準です。163 カ国、20,729 の組織や個人で使用され<sup>(2)</sup>、世界で最も普及しているといわれる、いわばデファクトスタンダードです。

また、2003 年には SFIA の開発、および情報システムを活用する組織への利用促進・導入支援を行う、SFIA Foundation<sup>(3)</sup> が設立されています。

IPA では、世界的に普及している IT スキル標準との連携により、iCD に最新情報の搭載が可能になるなどの利点があると考え、2016 年以降、SFIA Foundation と具体的な連携活動について協議を重ねてきました。その結果、IPA は英国ロンドンにおいて 9 月 4 日（現地時間）に、SFIA Foundation と相互協力協定を締結しました。これを受け、SFIA と iCD の比較のため 2 年半（期間：2017 年 9 月～2020 年 2 月末）におよぶ共同調査<sup>(4)</sup>に着手します。

■ 比較共同調査の計画概要

- ・ フェーズ 1：SFIA と iCD の構造等の比較
- ・ フェーズ 2：SFIA のシステム開発カテゴリーのスキルと iCD のタスク<sup>(5)</sup>をマッピング
- ・ フェーズ 3：SFIA の全カテゴリーのスキルと iCD のタスクをマッピング

共同調査により、IPA は世界各国の最新のスキル標準の動向の把握が可能になります。のみならず、例えばフェーズ 2 におけるマッピングが妥当と評価された場合、フェーズ 3 にて SFIA の持つ全 97 スキルを、iCD のタスクにマッピングする予定です。

なお、調印式はロンドンの SFIA Foundation の親団体である英国コンピュータ協会（BCS：British Computer Society）のオフィスで、IPA 理事長 富田達夫と SFIA Foundation Chairman Mr. Adam Thilthorpe によって行われました。

IPA は SFIA Foundation との共同調査により、国内の IT 人材育成における iCD 利用に弾みがつくと考えています。また、世界の SFIA 利用者に iCD が認知されることを期待しています。

■本件に関するお問い合わせ先

IPA IT 人材育成本部 HRD イニシアティブセンター 遠藤（修）／林口  
Tel: 03-5978-7544 Fax: 03-5978-7516

■報道関係からのお問い合わせ先

IPA 戦略企画部 広報グループ 白石  
Tel: 03-5978-7503 Fax: 03-5978-7510 E-mail: pr-inq@ipa.go.jp

<sup>(1)</sup> SFIA Version 6 ベースでは、6 カテゴリー 7 レベルに全 97 スキルが分類されている。

<sup>(2)</sup> 2017 年 7 月 SFIA V7 キックオフイベント：<https://drive.google.com/open?id=0BxPnnaZQGOASYXZOUmRTUmVPbG8>

<sup>(3)</sup> <https://www.sfia-online.org/en>

<sup>(4)</sup> 担当者との会議（面談・Web）、メールのやりとりなどを不定期に実施予定

<sup>(5)</sup> iCD におけるタスクは“組織における仕事の一覧”のことを指す。